

チャドクガ

知らないうちに皮膚炎が



チャドクガの幼虫（黒い部分に有毒な毛が密生）



チャドクガ成虫（雄）



チャドクガ成虫（雌）



チャドクガの卵塊



枝についた脱皮殻



チャドクガによる皮膚炎

発生時期												
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
発生												
多い												

代表的な有毒蛾で、幼虫、成虫ともに有毒な毛を持ち、皮膚に触れると痒い皮膚炎を起こします。

生態

幼虫がツバキ、サザンカ、チャに発生します。東京では5～6月頃と8月下旬～9月頃の2回、幼虫が発生し、この時期に被害が多発します。幼虫の体には多数の微小な毒の毛（毒針毛）があり、その毛に触れたり、毛が風に飛んだりして皮膚につくと、痒い皮膚炎を起こします。幼虫の脱皮殻や成虫の腹部にも毒針毛がついています。脱皮殻などの毒針毛が風で飛んで洗濯物に付着し、それを着て皮膚炎を起こす例も少なくありません。

ツバキなどは庭や公園に普通に植えられていますから、都会でも被害が発生します。なお、本種の発生量は年により差があります。

防除

幼虫は群集性が強く葉に群れています。枝ごと切り取り、土に埋めます（つぶしたり燃やしたりすると毛が飛散することがあります）。冬に葉の裏を丹念に調べて、写真のような卵塊（毛で覆われている）があれば葉ごと切り捨てます。

問い合わせ先